

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査業務

馬 面 遺 跡

—喜久田堀之内地区遺跡確認調査報告書—

令和6年9月

郡山市教育委員会

序 文

令和6（2024）年に市制施行100周年を迎えた本市は、安積疏水と安積開拓を礎として現在まで大きく発展を遂げてきました。この開拓以前にも、地理的特徴から、原始・古代より交通の結節点として東西南北から、さまざまな地域の文化が集まり、多様な文化が形成されてきました。

文化財は、地域の歴史や文化を理解する上で欠くことのできないものであり、地域文化の向上・発展の基礎となるものであります。その中でも、埋蔵文化財は文字の無い時代や文献資料の少ない地域の歴史や文化を解明するための貴重な資料です。

郡山市教育委員会では、本市の歴史や文化を解明する貴重な財産である埋蔵文化財を後世に遺し、継承していくことが現代に生きる私たちの大きな責務であるとの認識のもと、埋蔵文化財の保存と活用に努めているところです。

この度、確認調査を実施した地点は、確認調査必要地区の喜久田堀之内地区に該当し、試掘調査の結果、多くの遺構が確認されたことから詳細調査へと移行しました。確認された遺構の中には掘立柱建物跡があり、土師器片が出土していることから鎌倉時代の屋敷地だと考えられます。現在、JR磐越西線と国道49号を中心に住宅が立ち並ぶ等、開発が進んでいる地区もありますが、多くは田畑が広がっています。今後も確認調査必要地区での調査を進め、現存している埋蔵文化財の範囲を確認してまいります。

本書は、発掘調査の成果を周知し、活用できるように後世に残す記録としてまとめたものです。今後、地域の歴史解明の基礎資料や研究資料として、広く皆様に活用していただきますとともに、埋蔵文化財の保存と活用について御理解をなお一層深めていただければ幸いに存じます。

結びに、発掘調査実施から報告書作成にあたり、御尽力を賜りました関係各位の皆様に敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げ序文といたします。

令和6年9月

福島県郡山市教育委員会
教育長 小野 義 明

調査要項

遺跡名	馬面遺跡（うまづらいせき）
所在地	福島県郡山市喜久田町堀之内字上馬面・下小屋地内
履行期間	令和6年1月29日～9月27日
調査期間	令和6年1月30日～3月22日
調査面積	1,480 m ²
調査委託者	郡山市（市長 品川萬里）
調査主体者	郡山市教育委員会（教育長 小野義明）
調査担当者	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社（代表理事 浜津佳秀）
事務局	郡山市文化スポーツ課文化振興課文化財保護係（係長 濱田暁子）
調査員	工藤健吾
調査補助員	菅田義克 安藤未希
業務従事者	工藤 菅田 安藤 今泉淳子 吉田イチ子 山田秀和 塚原譲 橋本志津 柳田栄造

例言

1. 本書は、福島県郡山市喜久田町堀之内に所在する馬面遺跡の宅地造成に伴う遺跡確認調査の報告書である。
2. 確認調査及び整理報告に関わる全ての費用は郡山市が負担した。
3. 本書は、公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センターが編集し、郡山市教育委員会が発行した。
4. 本書の執筆は、第1章第1・3節及び第2・3章を公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センターの工藤健吾が担当し、第1章第2節を郡山市文化スポーツ部文化振興課文化財保護係の荒木麻衣が担当した。
5. 第1図に掲載した遺跡位置図は、国土地理院発行の25,000分の1地形図を利用した。
6. 遺構・遺物の図面作成・写真撮影は工藤健吾・菅田義克・安藤未希・吉田イチ子が行った。
7. 調査に伴う記録及び出土遺物は、郡山市教育委員会の保管である。

目 次

序 文
調査要項
例 言
目 次

第1章 環境と概要

第1節 遺跡の環境	1
第2節 調査に至る経緯	1
第3節 調査の方法	7

第2章 調査成果

第1節 掘立柱建物跡	8
第2節 土 坑	12
第3節 溝 跡	17
第4節 焼骨遺構	23
第5節 ピット	23
第6節 遺構外出土遺物	24

第3章 まとめ

馬面遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）	27
-------------------------	----

報告書抄録
奥 付

第1章 環境と概要

第1節 遺跡の環境

馬面遺跡は福島県郡山市喜久田町に所在し、郡山市の中心街からは北西に7kmほど離れている。郡山市の中心地域は郡山盆地に広がり、馬面遺跡が所在する喜久田町はその北部に位置する。

現在、郡山市内には1,180ヶ所余りの遺跡が確認されているが、馬面遺跡の所在する郡山市喜久田町に限ると18遺跡を数えるのみで、喜久田町は市内でも比較的遺跡数の少ない地域である。発掘調査が実施された事例も、昭和45年に東北縦貫道建設に伴って調査された高林遺跡のみである。以下、喜久田町を中心として周辺の熱海町、片平町の発掘調査成果を合わせて当地域の歴史を概観する。

喜久田町周辺で最も古い人間活動の痕跡は、熱海町安子島の二ノ谷遺跡で見つかった旧石器である。昭和40年代に開田による掘削中に発見された。この他、同じ安子島の内野遺跡も旧石器時代の遺跡として周知されている。

縄文時代になると遺跡数は増加する。磐越自動車道建設に伴って調査が行われた熱海町玉川の牧場山遺跡では、前期の土坑群と石器製作跡と思われる石器集中地点が見つかった。熱海町安子島の水無遺跡でも前期の土器がまとまって出土している。また、馬面遺跡から北西に900mほどの高林遺跡では中期の土器が出土した。

弥生時代の遺跡は当地域では僅少である。集落など定住の痕跡は見つかっていないが、前掲の水無遺跡で中期の土器が出土している。

古墳時代の遺跡も当地域では非常に少ない。片平町の新館遺跡で土坑から4世紀の土器が出土しているのみである。また、同じく片平町の四十坦塚群も古墳時代の遺跡として周知されているが、調査が行われていないため詳細は不明である。

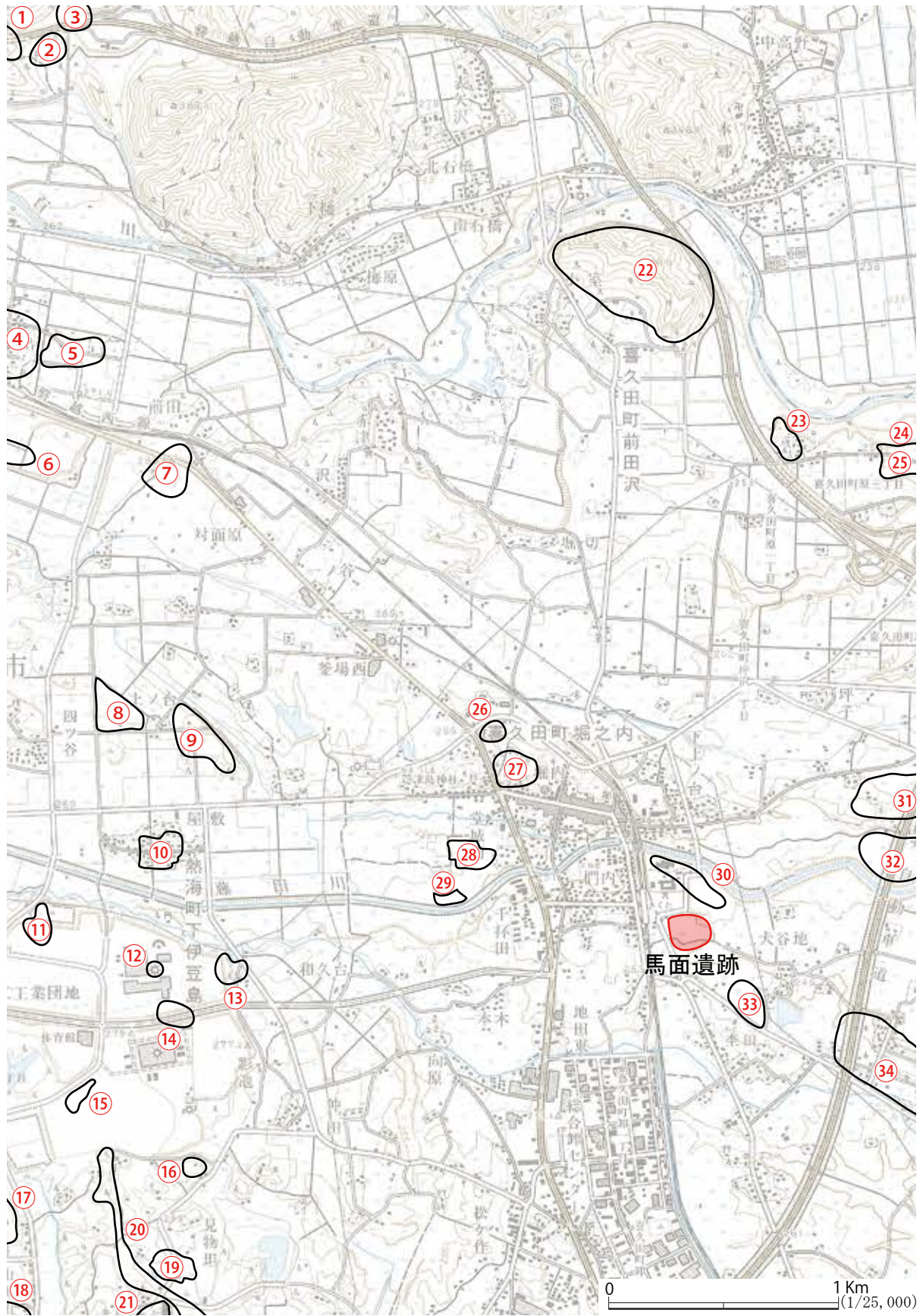
奈良・平安時代の遺跡としては、前述の高林遺跡で9世紀代と思われる住居跡が見ついている。また、牧場山遺跡でも平安時代の住居跡が見つかった。

中世では高林遺跡で館跡の一部と思われる遺構が見ついている。本遺構は溝跡と掘立柱建物跡で構成されており、館跡の南側に作られた門跡と考えられている。この他、喜久田町内には堀之内館跡、西館跡などが分布する。

第2節 調査に至る経緯

確認調査必要地区の喜久田堀之内地区で開発の計画の相談があり、令和5年11月6日から9日に対象となる開発区域7,900㎡に、トレンチを12本設定し、調査面積244.16㎡の試掘調査を実施した。調査の結果、現表土面から15cmから115cmの深さで、土坑や溝跡・ピットを検出し、須恵器片が出土した。そのため、遺構・遺物が確認された範囲の6,200㎡を要保存範囲と判断した。

その後、埋蔵文化財包蔵地外の遺構・遺物の検出であったため、埋蔵文化財の新発見に伴う詳細な調査が必要であることから現状保存が困難である範囲4,500㎡を対象にトレンチによる発掘調査をすることとした。

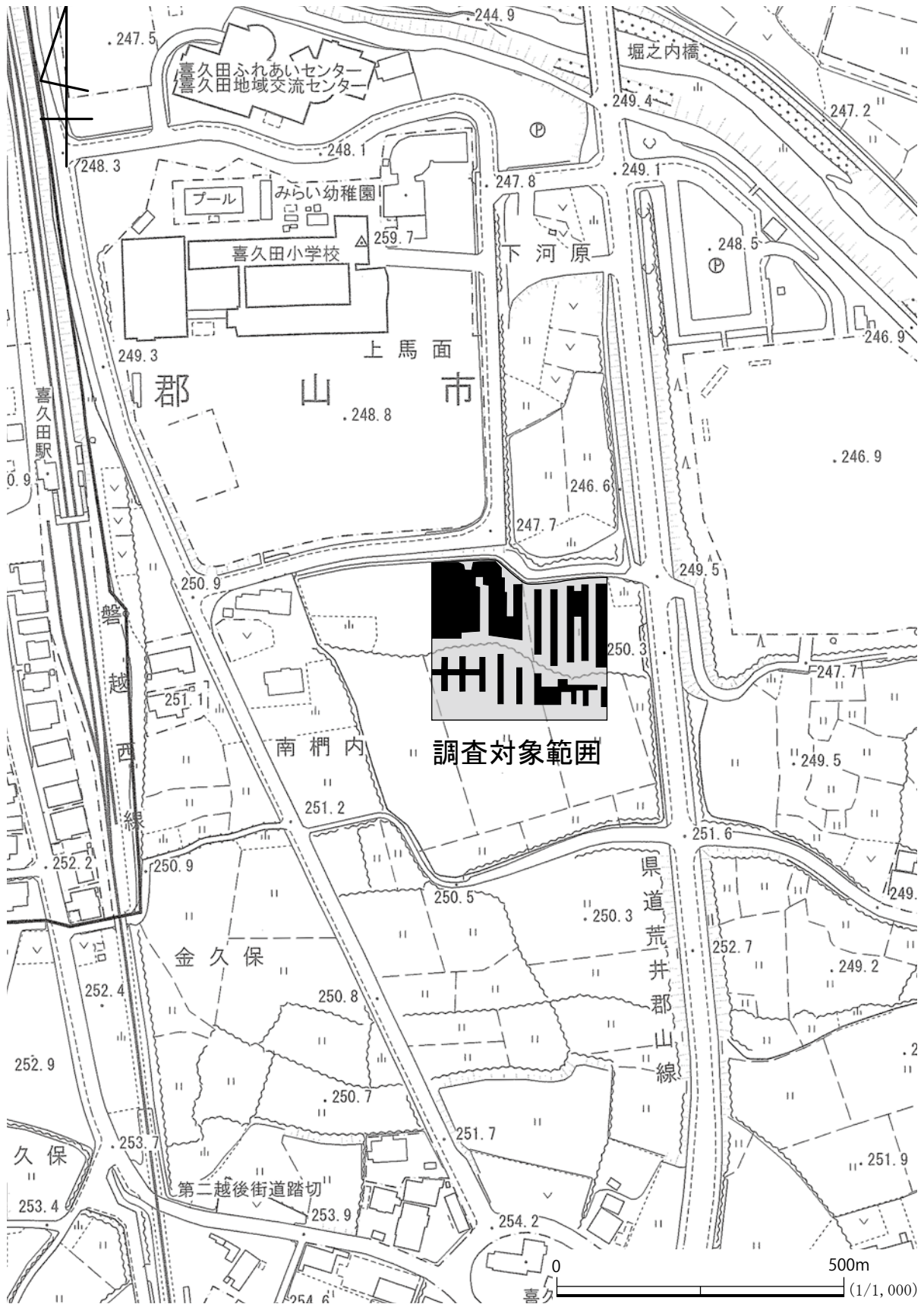


第1図 周辺の遺跡

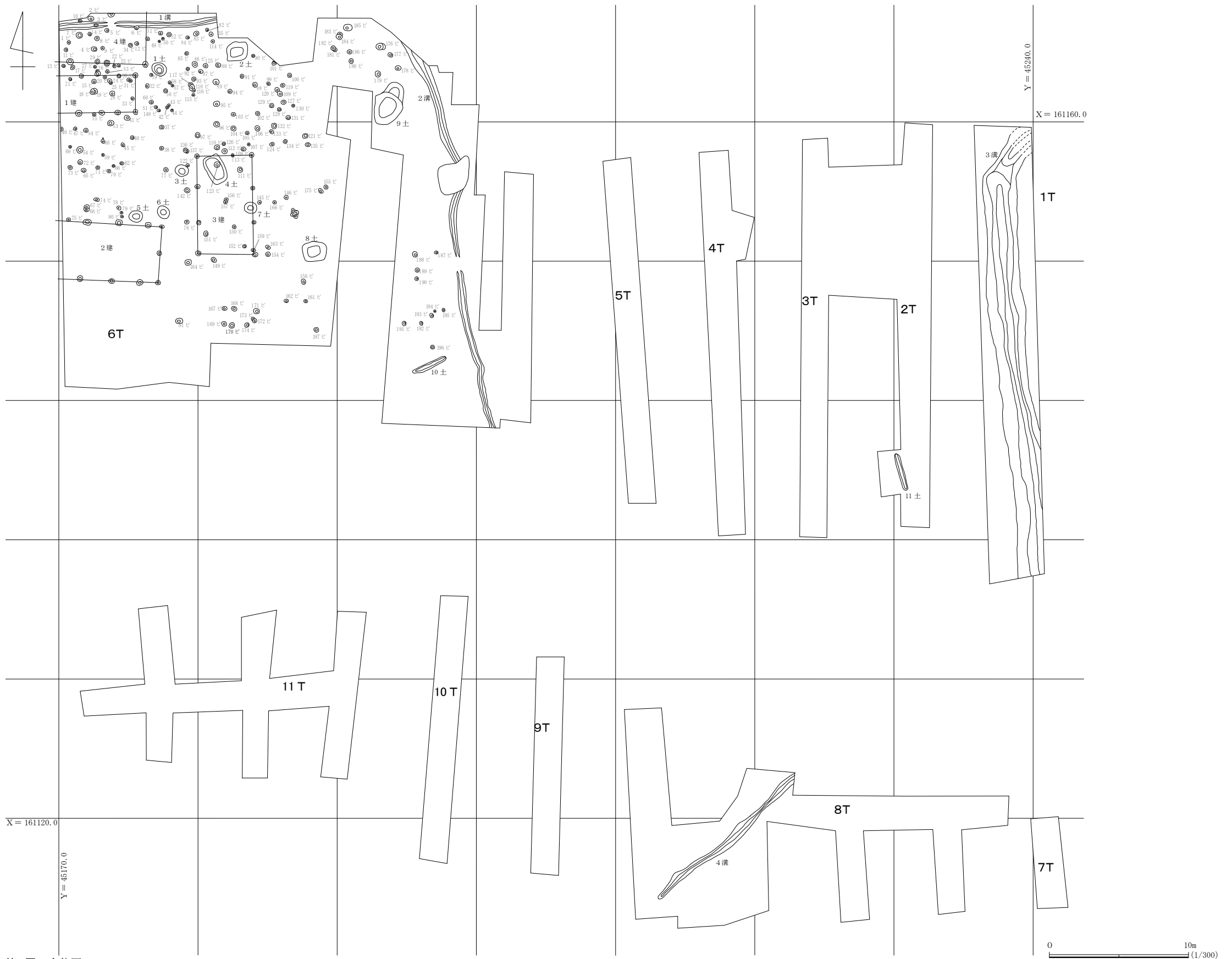
第1節 遺跡の環境

No.	遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	備考
①	20360797	横山遺跡	熱海町玉川字横川	散布地	平安	
②	20360798	鍛冶田遺跡	熱海町玉川字鍛冶田	散布地	縄文	
③	20360037	牧場山遺跡	熱海町玉川字牧馬山	散布地	縄文・平安	昭61・平元年調査
④	20360050	安子島城跡	熱海町安子島字町・南町・桜畑	城館跡	中世	平4年調査
⑤	20360052	水無遺跡	熱海町安子島字水無	散布地	縄文	昭63・平元・2年調査
⑥	20361132	内野遺跡	熱海町安子島字内野	散布地	旧石器	
⑦	20360053	二ノ谷遺跡	熱海町安子島字二ノ谷	散布地	旧石器・縄文	
⑧	20360058	外手作遺跡	熱海町下伊豆島字万部	散布地	縄文	
⑨	20360059	下伊豆島遺跡	熱海町下伊豆島字上ノ台	散布地	縄文・奈良・平安	
⑩	20360063	片式館跡	熱海町上伊豆島字屋敷	城館跡	中世	
⑪	20360070	館ノ越遺跡	熱海町下伊豆島字館ノ越	城館跡	中世	昭63年調査
⑫	20361120	諏訪山遺跡	熱海町下伊豆島字諏訪山	塚	中世	昭63年調査
⑬	20360072	定七林遺跡	熱海町下伊豆島字定和久台	散布地	奈良・平安	
⑭	20360071	和久台窯跡	熱海町下伊豆島字影池	窯跡	奈良・平安	
⑮	20360080	新館遺跡	片平町字新館	散布地	縄文・古墳・中世	平元年調査
⑯	20361143	瓜坪館館跡	片平町字瓜坪館	城館跡	中世	
⑰	20360081	山神館跡	片平町字北向・館下	城館跡	中世	
⑱	20360082	幸新館跡	片平町字幸新館・庚申作	城館跡	中世	
⑲	20360084	見物垣遺跡	片平町字見物壇	散布地	奈良・平安	
㉑	20360083	四十垣塚群	片平町字稲葉・妙見館	塚	古墳	
㉒	20360085	妙見館跡	片平町字妙見館	城館跡	中世	
㉓	20360051	小室遺跡	喜久田町前田沢字小室山	散布地	縄文	
㉔	20360054	上原遺跡	喜久田町前田沢字上原	散布地	縄文	
㉕	20360055	西館遺跡	喜久田町前田沢字原三丁目	散布地	縄文	
㉖	20361140	西館跡	喜久田町前田沢字原	城館跡	中世	
㉗	20360060	釜場窯跡	喜久田町堀之内字釜場西	窯跡		
㉘	20360061	北山遺跡	喜久田町堀之内字北山	散布地	縄文	
㉙	20361179	堀之内館跡	喜久田町堀之内字堀之内・秋殿前	城館跡	中世	
㉚	20361180	六斗蒔遺跡	喜久田町堀之内字六斗蒔	散布地	弥生	
㉛	20361166	下河原遺跡	喜久田町堀之内字下河原	散布地	奈良・平安	
㉜	20360064	高林遺跡	喜久田町早稲原字高林	散布地	縄文・奈良～中世	昭和45年調査
㉝	20360065	堀ノ内館跡	喜久田町早稲原字柳田・梅田	城館跡	中世	
㉞	20360073	大谷地脇遺跡	喜久田町早稲原字大谷地脇	散布地	縄文	
㉟	20360805	伝左工門原遺跡	喜久田町早稲原字伝左工門原	散布地	平安	

第1章 環境と概要



第2図 周辺の地形



第3図 全体図

これを受けて、遺構確認調査業務を令和6年1月29日付けで郡山市と公益財団法人郡山市文化・学び振興公社との間で委託契約が締結された。

第3節 調査の方法

試掘調査によって確定した確認調査範囲に複数のトレンチを設定して調査した。0.45 m³級バックホウを使用して1.8 m幅で表土を除去し、遺構を検出した場合はその部分を中心に拡張していった。調査範囲の中央南部に用水路が残存しており、この部分を除いて北部に1～6号トレンチ、南部に7～11号トレンチを設定して掘削した。なお、3号トレンチは途中で拡張して2号トレンチと接続し、6号トレンチはピット群を検出したため拡張を繰り返して東西幅34 mとなった。

基本層位は試掘調査で確認した層位を使用し、次の通りとした。

L I = 耕作土 (層厚 22 ～ 80 cm)

L II = 明褐色土 (層厚 24 ～ 45 cm)

L III = 青灰色砂質土 (層厚 20 cm)

L IV = 灰褐色土 (層厚 20 ～ 35 cm)

L V = 黄褐色ハードローム (地山)

遺構検出はL V上面で行った。

第2章 調査成果

馬面遺跡の調査で検出した遺構は掘立柱建物跡4棟、土坑11基、溝跡4条、ピット185基で、出土した遺物は平箱で1箱であった。以下、遺構ごとに内容を詳述する。なお、遺構の検出面は全てLIV上面である。

第1節 掘立柱建物跡

1号建物跡

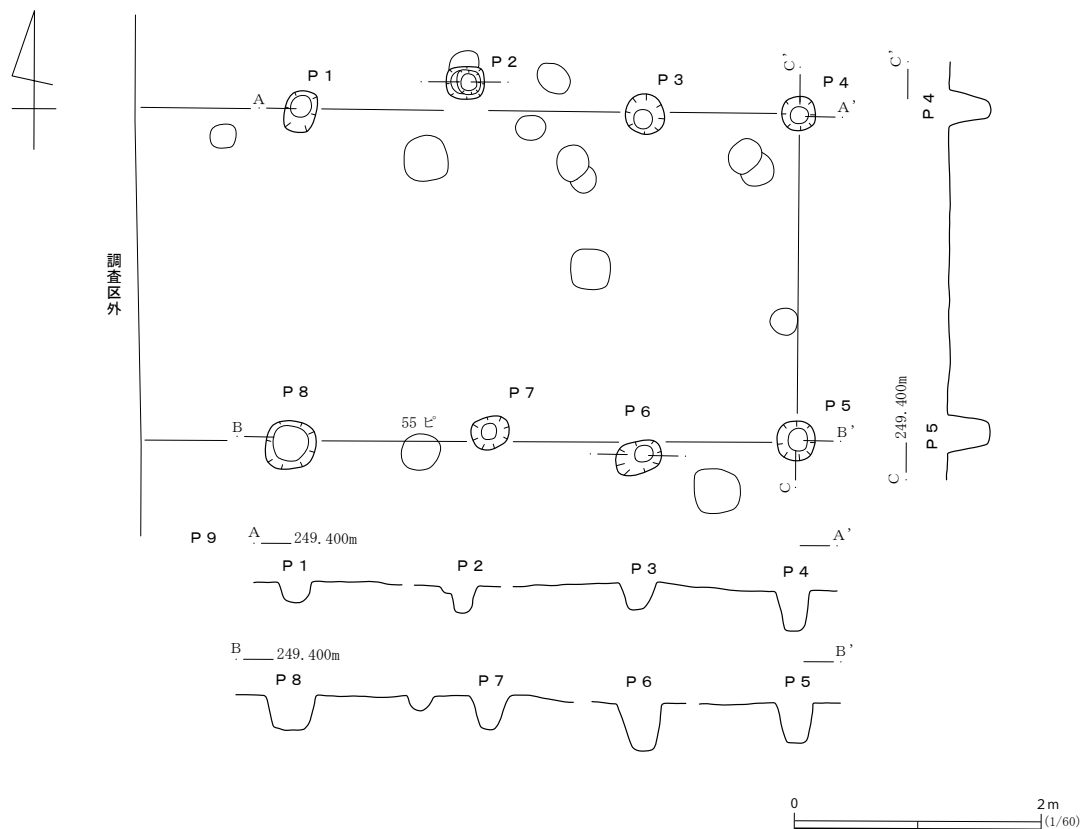
[遺構] (第4図)

6号トレンチ北西に検出した掘立柱建物跡である。西側が調査区外に入る。南北1間×東西3間以上の東西棟で、主軸方向はN 90° Eである。柱間距離は柱穴中心間でP 1-2が136cm、P 2-3が143cm、P 3-4が127cm、P 4-5が263cm、P 5-6が123cm、P 6-7が123cm、P 7-8が161cmをそれぞれ測る。各柱穴の規模は表のとおりである。

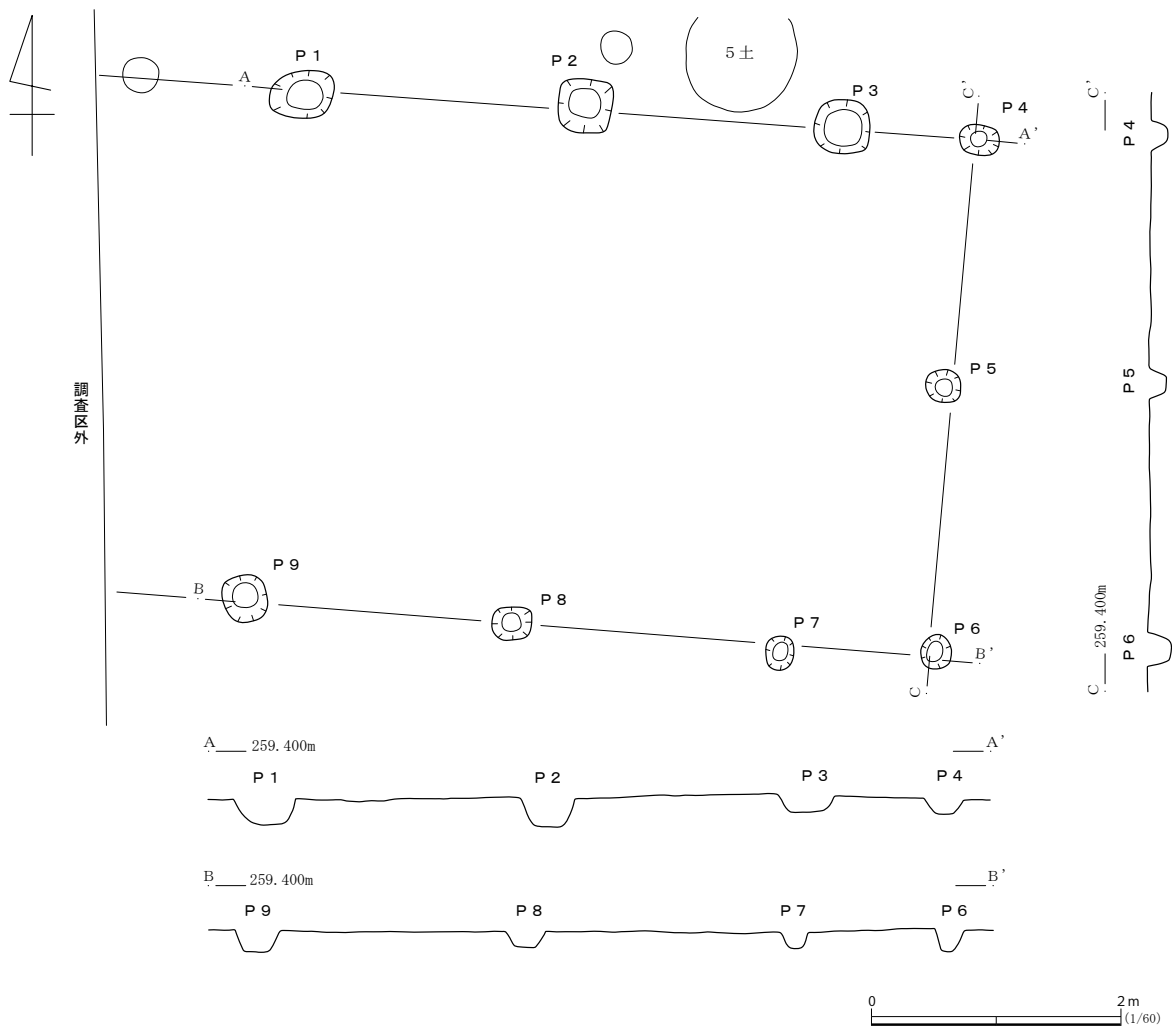
[遺物]

P 5から土師器片1点が出土したが、小片のため図化できなかった

	長径	短径	深さ
P 1	34	25	17
P 2	31	26	21
P 3	32	32	21
P 4	27	27	32
P 5	32	31	32
P 6	38	24	38
P 7	31	25	27
P 8	40	40	27



第4図 1号建物跡



第5図 2号建物跡

た。

[まとめ]

本建物跡は南北1間×東西3間以上の東西棟である。出土遺物が無いため正確な時期は不明であるが、周辺の遺構群が概ね中世と考えられるため同時期の可能性が高い。

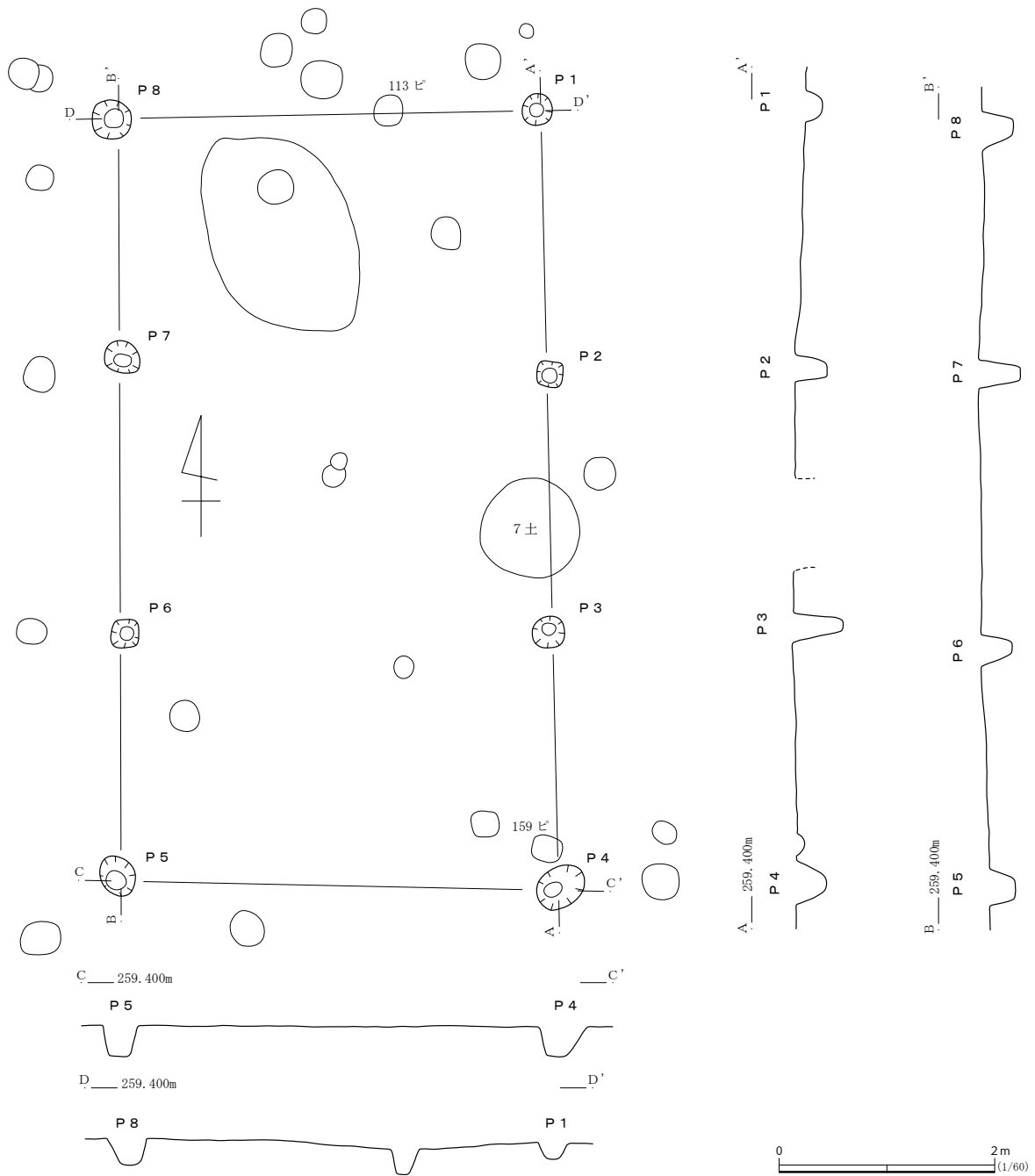
2号建物跡

[遺構] (第5図)

6号トレンチ南西に検出した掘立柱建物跡である。西側が調査区外に入る。南北2間×東西3間以上の東西棟で、主軸方向はN 94° Eを向く。柱間距離は柱穴中心間でP 1-2が224cm、P 2-3が208cm、P 3-4が110cm、P 4-5が200cm、P 5-6が212cm、P 6-7が124cm、P 7-8が218cm、P 8-9が216cmをそれぞれ測る。各柱穴の規模は表のとおりである。

2号建物跡柱穴計測表			
	長径	短径	深さ
P 1	50	38	21
P 2	43	34	23
P 3	45	43	14
P 4	32	24	12
P 5	29	26	13
P 6	26	24	17
P 7	28	22	13
P 8	32	26	13
P 9	37	35	17

第2章 調査成果



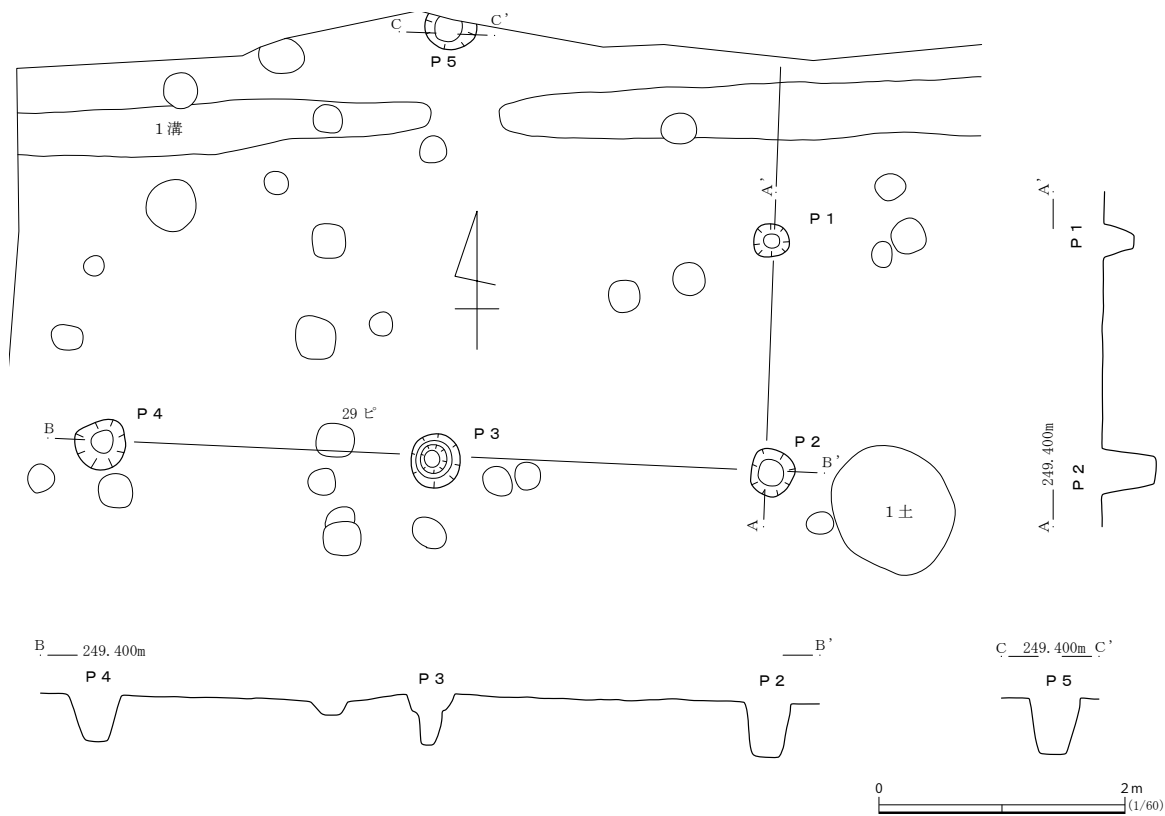
第6図 3号建物跡

[遺物]

P 2 から土師器片 1 点が出土したが、小片のため図化できなかった。

[まとめ]

本建物跡は南北 2 間×東西 2 間以上の東西棟である。P 3 - 4 と P 5 - 6 の間隔は他の柱間に比べて狭くなっている。出土遺物が無いため正確な時期は不明であるが、周辺の遺構群が概ね中世と考えられるため同時期の可能性が高い。



第7図 4号建物跡

3号建物跡

[遺構] (第6図)

6号トレンチ中央西寄りに検出した掘立柱建物跡である。南北3間×東西1間の南北棟で、主軸方向は真北を向く。柱間距離は柱穴中心間でP1-2が248cm、P2-3が236cm、P3-4が240cm、P4-5が410cm、P5-6が230cm、P6-7が254cm、P7-8が224cm、P8-1が392cmをそれぞれ測る。各柱穴の規模は表のとおりである。

[遺物]

遺物は出土しなかった。

[まとめ]

本建物跡は南北3間×東西1間の南北棟である。出土遺物が無いため時期は不明であるが、周辺の遺構群が概ね中世と考えられるため同時期の可能性が高い。

	長径	短径	深さ
P1	30	28	16
P2	24	24	29
P3	30	29	46
P4	48	36	28
P5	40	31	24
P6	27	26	28
P7	34	29	38
P8	36	36	29

4号建物跡

[遺構] (第7図)

6号トレンチ北西に検出した掘立柱建物跡である。北側と西側が調査区外に入る。南北2間以上×東西2間以上で、主軸方向はN92°Eを向く。柱間距離は柱穴中心間でP1-2が190cm、P2

第2章 調査成果

－3が274cm、P3－4が268cmをそれぞれ測る。各柱穴の規模は表のとおりである。

[遺物]

遺物は出土しなかった。

[まとめ]

本建物跡は南北3間×東西2間以上の東西棟と思われる。平面プランの大半が調査区外に入るため詳細は不明である。出土遺物が無い
ため時期は不明であるが、周辺の遺構群が概ね中世と考えられるため同時期の可能性が高い。

	長径	短径	深さ
P 1	29	27	24
P 2	37	34	44
P 3	44	40	41
P 4	43	42	38
P 5	42	(25)	45

第2節 土 坑

1号土坑

[遺構] (第8図)

6号トレンチ北西部に検出した。ピット39と重複し、平面・断面観察の結果、本遺構が新しいと判断した。平面は円形を呈し、規模は上面径で110×94cm、底面径で46×45cm、検出面からの深さは68cmを測る。側壁は急峻に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は3層で、自然堆積と思われる。

[遺物]

図化できる遺物はなかったが、底面から加工したと思われる木片が1点出土した。

[まとめ]

本遺構は出土遺物が僅少なため時期は不明であるが、青磁碗が出土した5号土坑と形状・堆積状況などが酷似しており、同時期のものと思われる。

なお、底面から出土した木片は放射性炭素年代測定の結果、11世紀後半～13世紀前半という結果が得られている。

2号土坑

[遺構] (第8図)

6号トレンチ北西部に検出した。平面はやや不整な方形を呈し、規模は上面径で150×148cm、底面径で115×105cm、検出面からの深さは56cmを測る。側壁は急峻に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は3層で、人為堆積と思われる。

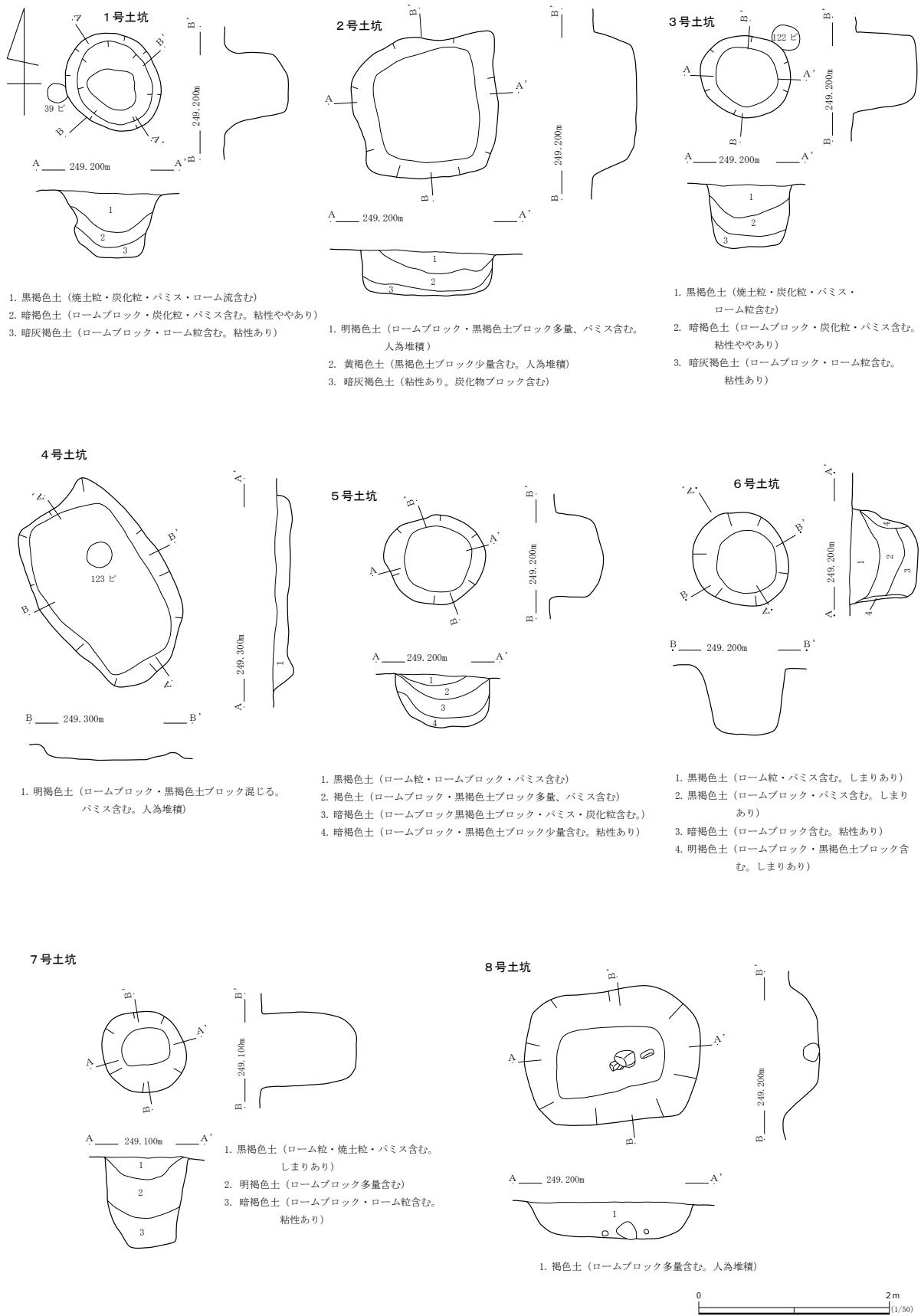
[遺物]

遺物は出土しなかった。

[まとめ]

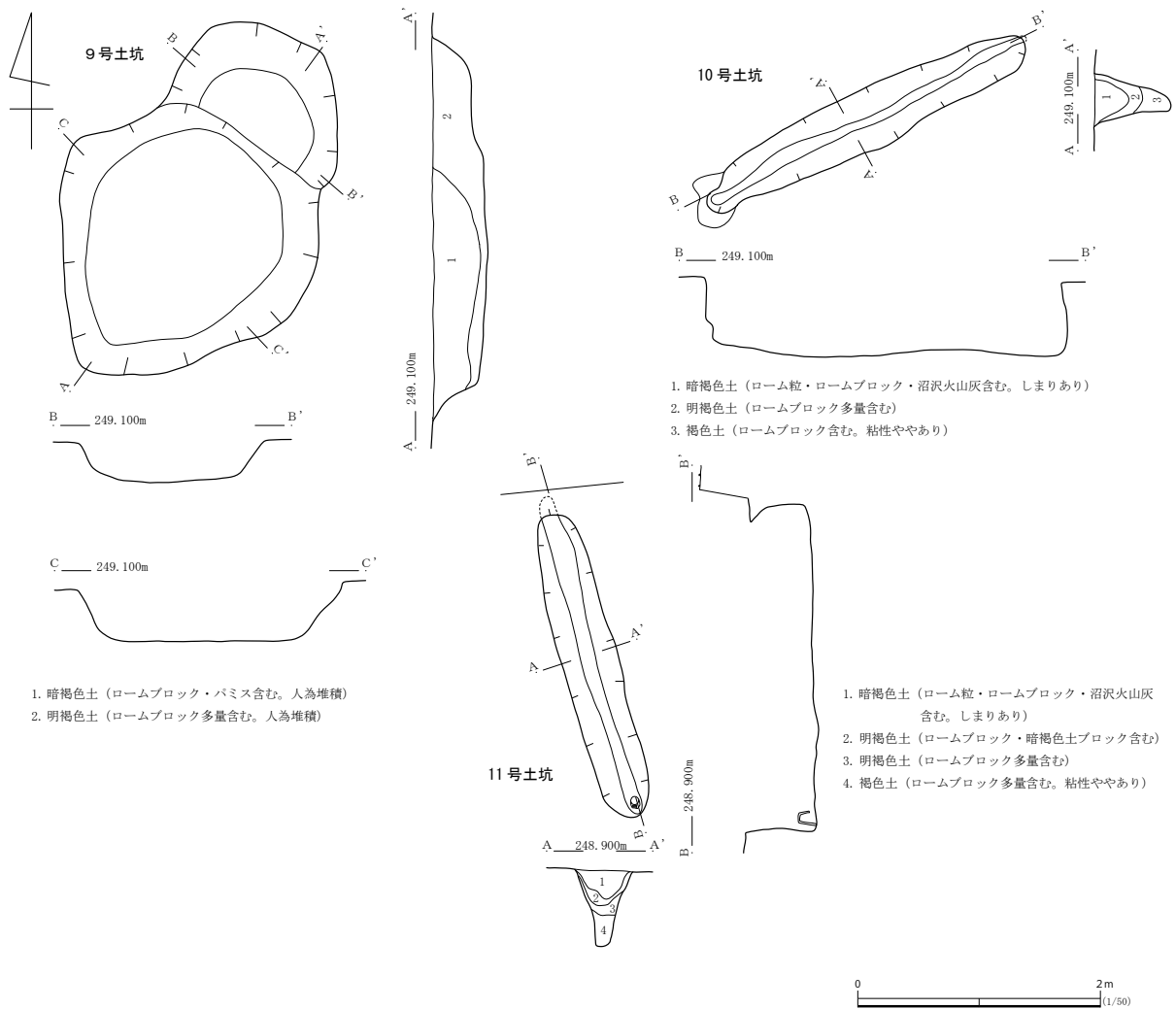
人為的に埋められたと思われる遺構である。出土遺物がないため時期は不明であるが、中世の可能性が高い。

第2節 土坑



第8図 土坑 (1)

第2章 調査成果



第9図 土坑 (2)

3号土坑

[遺構] (第8図)

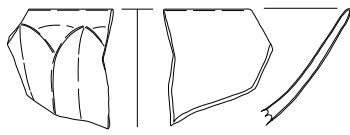
6号トレンチ中央西寄りに検出した。ピット122と重複し、平面・断面観察の結果、本遺構が新しいと判断した。平面は円形を呈し、規模は上面径で97×85cm、底面径で65×60cm、検出面からの深さは65cmを測る。側壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は3層で、自然堆積と思われる。

[遺物]

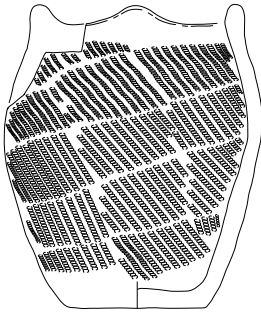
土師器片が1点出土しているが、小片のため図化できなかった。

[まとめ]

本遺構は出土遺物が僅少なため時期は不明であるが、青磁碗が出土した5号土坑と形状・堆積状況などが酷似しており、同時期のものと思われる。



1 (5号土坑 底面)



2 (11号土坑 底面)



第10図 土坑出土遺物

4号土坑

[遺構] (第8図)

6号トレンチ中央西寄りに検出した。ピット123と重複し、平面・断面観察の結果、本遺構が新しいと判断した。また、3号建物跡と位置的に重複するが、遺構の切り合いが無いいため新旧関係は不明である。平面は不整な長方形を呈し、規模は上面径で205×138cm、底面径で177×109cm、検出面からの深さは14cmを測る。側壁は急峻に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土はロームブロックを含む黄褐色土の1層で、人為堆積と思われる。

[遺物]

遺物は出土しなかった。

[まとめ]

人為的に埋められたと思われる遺構である。時期は不明であるが、中世の可能性が高い。

5号土坑

[遺構] (第8図)

6号トレンチ中央西寄りに検出した。平面はやや不整な円形を呈し、規模は上面径で105×95cm、底面径で70×68cm、検出面からの深さは54cmを測る。側壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は4層に分層され、自然堆積と思われる。

[遺物] (第10図)

底面から青磁碗破片が1点出土した。残存高は4.8cmで、鎬蓮弁文が施されている。この他、堆積土中から土師器片が1点出土したが、小片のため図化できなかった。

[まとめ]

本遺構は井戸状に掘られた土坑である。時期は、底面から出土した青磁碗破片が13～14世紀のものであるため、中世に機能したものと考えられる。

6号土坑

[遺構] (第8図)

6号トレンチ西部に検出した。平面形は円形を呈し、規模は上面径で106×98cm、底面径で67×67cm、検出面からの深さは70cmを測る。側壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は4層に分層され、自然堆積と思われる。

[遺物]

堆積土中から土師器片が2点出土したが、ともに小片のため図化できなかった。

[まとめ]

本遺構は出土遺物が僅少なため時期は不明であるが、青磁碗が出土した5号土坑と形状・堆積状況などが酷似しており、同時期のものと思われる。

7号土坑

[遺構] (第8図)

6号トレンチほぼ中央部に検出した。平面形は円形を呈し、規模は上面径で86×85cm、底面径で50×39cm、検出面からの深さは96cmを測る。側壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は3層に分層され、自然堆積と思われる。

[遺物]

遺物は出土しなかった。

[まとめ]

本遺構は出土遺物が無いため時期は不明であるが、青磁碗が出土した5号土坑と形状・堆積状況などが酷似しており、同時期のものと思われる。

8号土坑

[遺構] (第8図)

6号トレンチ中央やや東寄りに検出した。平面形は上面がやや不整な楕円形、底面は長方形を呈し、規模は上面径で184×137cm、底面径で104×65cm、検出面からの深さは37cmを測る。側壁は長軸方向が急峻に立ち上がり、短軸方向はやや緩やかに立ち上がる。堆積土はロームブロックを多量に含む人為堆積土であった。

[遺物]

遺物は漆製品の一部と思われる小片が見つかったが、図化できなかった。

[まとめ]

人為的に埋められたと思われる遺構である。時期は不明であるが、中世の可能性が高い。

9号土坑

[遺構] (第9図)

6号トレンチ北東部に検出した。平面は不整な長楕円形であるが、底面に段を有しており、南西部と北東部に分けられる。不整円形の土坑が2基重複している可能性もあったが、平面・断面観察の結果、重複関係は認められなかった。規模は上面径で325×227cm、底面径は深い部分で192×155cm、浅い部分では100×58cmを測る。検出面からの深さは深い部分で43cm、浅い部分で32cmを測る。側壁は急峻に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は2層に分層され、人為堆積と思われる。

[遺物]

遺物は出土しなかった。

[まとめ]

本遺構は2基の土坑に分けられる可能性もあるが、断面観察の結果、同時期に埋められたものと判断した。

遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

10号土坑

[遺構] (第9図)

6号トレンチ南西部に検出した。平面は溝状に近い長楕円形で、規模は上面径で295×50cm、底面径で292×10cm、検出面からの深さは62cmを測る。長軸方向の側壁は急峻に立ち上がり、短軸方向は一部オーバーハングする。底面は丸みを帯びる。堆積土は3層に分層され、最上層の①は沼沢火山灰を含んでいた。

[遺物]

遺物は出土しなかった。

[まとめ]

本遺構は縄文時代の落とし穴と思われる土坑である。正確な時期は出土遺物がないため不明であるが、形状や堆積土の状況は縄文時代前期の土器を出土した11号土坑と酷似している。このため、11号土坑と同時期に機能した可能性が高いと考えている。

11号土坑

[遺構] (第9図)

2号トレンチ南端に検出した。平面は溝状に近い長楕円形で、規模は上面径で258×47cm、底面径で273×17cm、検出面からの深さは63cmを測る。長軸方向の側壁は急峻に立ち上がり、短軸方向は一部オーバーハングする。底面はやや丸みを帯びる。堆積土は4層に分層され、最上層の①は沼沢火山灰を含んでいた。

[遺物] (第10図)

底面から倒立した状態で縄文土器1点が出土した。口縁部を一部欠損しているが、底部から体部まではほぼ完全な形で残存している。4単位の波状口縁になると思われ、復元口径8.6cm、底径5.8cm、器高は12.3cmを測る。

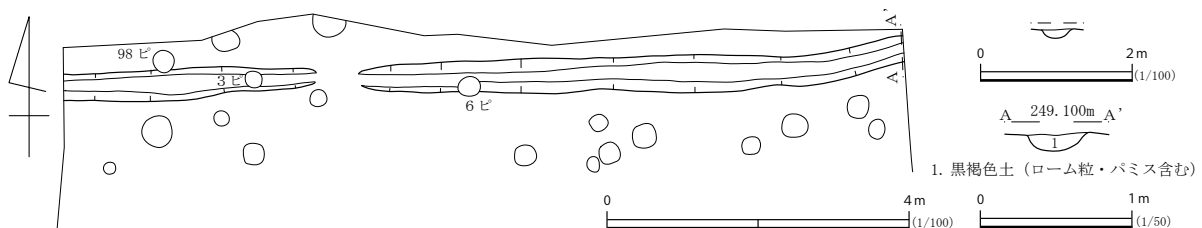
[まとめ]

本遺構は縄文時代の落とし穴と思われる土坑である。底面から土器が出土しており、その特徴から縄文時代前期後半～中期のものと思われる。

第3節 溝 跡

1号溝跡

[遺構] (第11図)



第10図 1号溝跡

第2章 調査成果

6号トレンチに北端に検出した溝跡である。6号トレンチ北西端から西に流れ、トレンチ北東部で調査区外に入る。検出した部分の長さは11.0mを測る。幅は29～38cmで、深さは最大で5cmである。堆積土は黒褐色土の1層で、底面は丸みを帯びる。

[遺物] (第15図)

遺物は土師器片が少量出土している。このうち、第15図1の土師器坏を図示した。

[まとめ]

本遺構は東西に流れる溝跡である。建物跡・土坑・ピットが集中する地点の北側を区画していた区画溝の可能性はある。時期は中世と考えている。

2号溝跡

[遺構] (第12図)

6号トレンチ東部に検出した溝跡である。トレンチ北壁から南東に向かって流れ、南壁で調査区外に入る。検出した部分の長さは28.0mを測る。幅は50～75cmで、深さは最大で6cmである。堆積土は黒褐色土の1層で、底面は丸みを帯びる。

[遺物]

遺物は土師器片が少量出土している。全て小片のため図化できるものはなかった。

[まとめ]

本遺構は南北に流れる溝跡である。建物跡・土坑・ピットが集中する地点の東側を区画していた区画溝の可能性はある。時期は中世と考えている。

3号溝跡

[遺構] (第13図)

調査区東端の1号トレンチに検出した溝跡である。トレンチ北東壁から南西に流れ、すぐに屈曲して南に向かう。トレンチ南部で調査区外に入る。検出した部分の長さは28.6mを測る。幅は上面で230～285cm、底面で28～30cmで、深さは最大で76cmを測る。断面形はV字形を呈する。

[遺物]

遺物は出土しなかった。

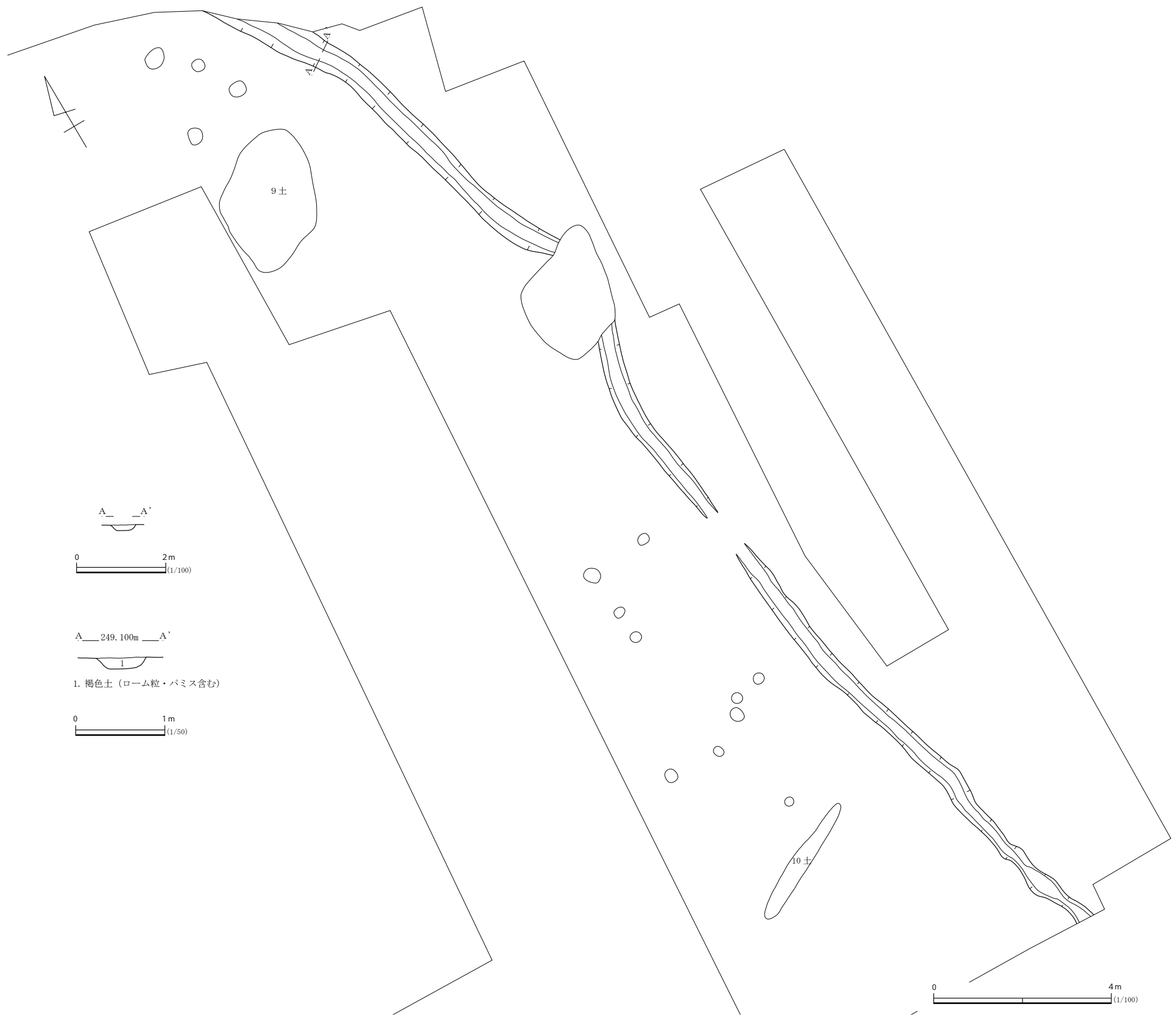
[まとめ]

本遺構は南北に流れる溝跡で、調査区北部で東に屈曲して調査区外に入る。溝跡の形状などから概ね中世に機能したものと考えているが、遺物が無いため時期は不明である。また、6号トレンチで見つかった中世の遺構群との関係も不明である。

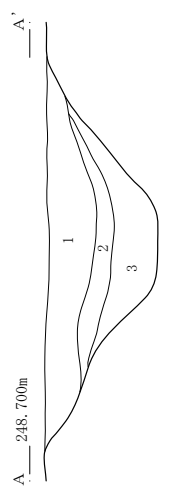
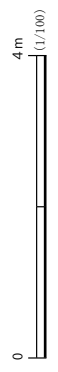
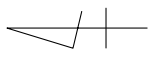
4号溝跡

[遺構] (第14図)

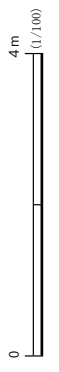
調査区南部の11号トレンチに検出した溝跡である。トレンチ北東壁から南西に流れ、トレンチ南西部で浅くなり消失する。検出した部分の長さは12.8mを測る。幅は上面で230～285cm、底面で28～30cm、深さは最大で4cmを測る。底面は丸みを帯びる。



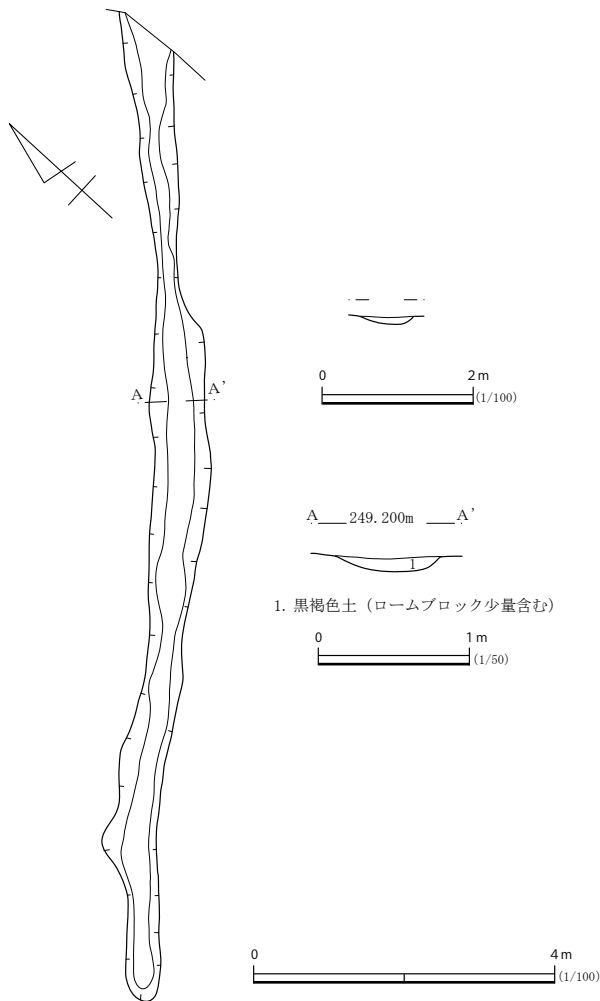
第12図 2号溝跡



- 1. 茶褐色土 (ローム粒含む)
- 2. 褐色土 (灰褐色土ブロック含む。粘性ややあり)
- 3. 灰褐色土 (炭化粒・植物遺体含む。粘性強)



第 13 図 3号溝跡



第14図 4号溝跡

第4節 焼骨遺構

1号焼骨遺構

[遺構] (第16図)

6号トレンチに検出した。平面形は楕円形であるが、中央部の溝状の掘り込みが短軸方向に突出している。長軸方向の長さは56cmで、短軸方向は28cm、溝状の掘り込み部分は長さ44cmで幅

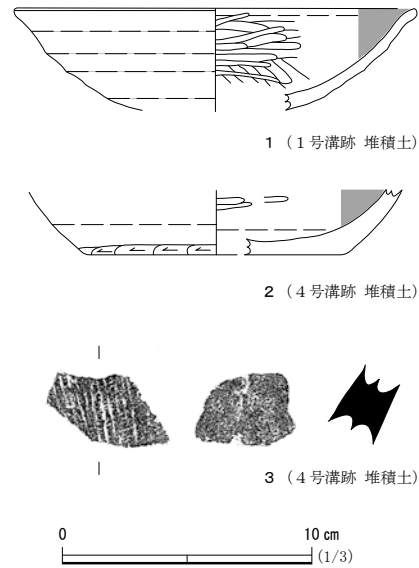
17cmを測る。検出面からの深さは最大7cmで、溝状の掘り込み部分は4cmになっている。堆積土は黒褐色土の1層で骨片を多く含んでおり、他にも焼土粒・炭化粒を含んでいた。

[遺物]

骨片が出土した他は図化できるものはなかった。

[まとめ]

本遺構は堆積土に骨片を含んでいたことから、焼骨遺構としたものである。時期を決定できる遺物が出土しなかったが、周辺の遺構との関係から中世に機能したのと考えている。



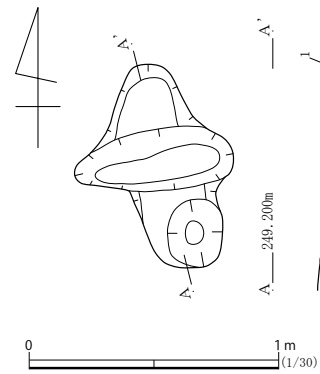
第15図 溝跡出土遺物

[遺物] (第15図)

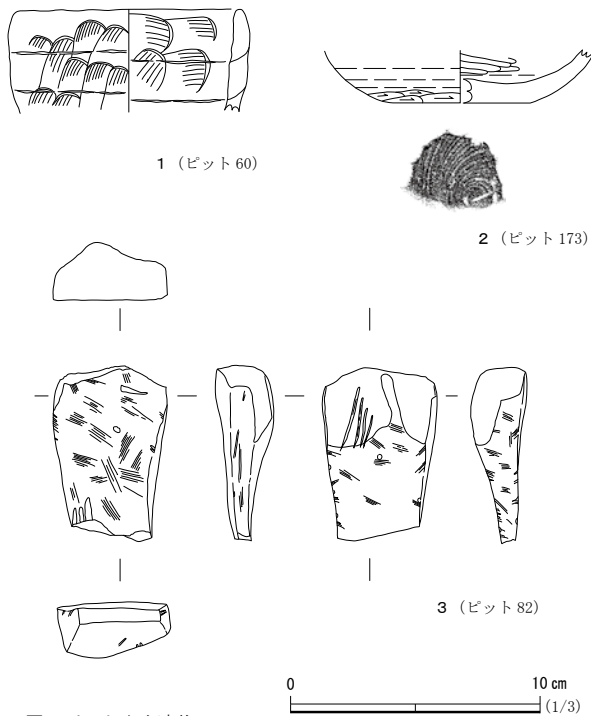
遺物は土師器片と須恵器片が少量出土しており、そのうち2点を図示した。

[まとめ]

本遺構は北東から南西に流れる溝跡である。時期は出土遺物から古代以降のものと考えられる。



第16図 1号焼骨遺構



第17図 ピット出土遺物

第5節 ピット

ピットは185基検出した。現地調査では200基の番号を付けたが、その後の整理作業で掘立柱建物跡の柱穴としたもの、遺構と考えにくいもの、などがあったためそれらは欠番とした。

ピットは全て6号トレンチから見つかった。2号溝跡から西に集中しており、西に向かうほど集中する傾向があった。各ピットの計測値は計測表にまとめた。

遺物は第17図にまとめた。1はピット60から出土した筒形土器である。内外面に輪積痕が残っており、ユビナデで整形されている。2はピット173から出土した土師器坏の底部破片である。ロクロ整形で内面は黒色処理されている。底面に糸切り痕が残り、体部下端はヘラ削りされている。3はピット82から出土した砥石である。全体に擦痕が認められる。

第6節 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物をまとめた(第18図)。

1～3は須恵器の破片である。1は長頸瓶の胴部片、2・3は甕の胴部片と思われる。4は磨製石斧である。残存長9.3cm、最大幅5.2cm、最大厚は3.3cmを測る。5は宋銭で、元豊通宝と思わ

第3章 まとめ

馬面遺跡の調査成果をまとめてみたい。

まず、馬面遺跡で最も古い遺構は縄文土器が出土した溝状の落とし穴(10・11号土坑)である。落とし穴は遺物が出土しないことが多いが、本遺跡では11号土坑の底面から縄文土器が出土した。特徴に乏しく時期は明確にできないが、前期後半から中期と考えている。また、遺構外から磨製石斧、石鏃が見つかっており、本遺跡周辺に縄文時代の集落が存在する可能性がある。なお、本遺跡から北東に1kmに所在する高林遺跡では中期の土器片が出土している。

次に本遺跡の主体的な時期となる中世の遺構・遺物についてまとめてみる。中世の遺構は掘立柱建物跡が4棟、土坑9基、溝跡4条、ピット185基がある。ピットと掘立柱建物跡は調査区北西部の6号トレンチに集中しており、この遺構群の北側に1号溝跡が東西に、東側に2号溝跡が南北に

第5節 ピット

No.	サイズ (長×短×深)	平面	No.	サイズ (長×短×深)	平面	No.	サイズ (長×短×深)	平面	No.	サイズ (長×短×深)	平面
1	18 × 16 × 7	円	54	41 × 39 × 46	隅丸方	107	14 × 14 × 4	円	160	欠番	
2	36 × 27 × 16	楕円	55	30 × 30 × 21	円	108	32 × 31 × 22	円	161	25 × 24 × 7	円
3	23 × 22 × 12	円	56	25 × 22 × 17	不整円	109	40 × 38 × 38	円	162	17 × 17 × 10	円
4	35 × 32 × 40	隅丸方	57	19 × 18 × 12	隅丸方	110	32 × 28 × 20	円	163	25 × 20 × 12	楕円
5	22 × 21 × 5	円	58	23 × 22 × 9	不整円	111	29 × 26 × 22	隅丸方	164	42 × 30 × 21	隅丸長方
6	30 × 25 × 13	円	59	26 × 25 × 25	円	112	39 × 35 × 9	楕円	165	欠番	
7	42 × 41 × 30	円	60	20 × 20 × 23	隅丸方	113	29 × 26 × 23	円	166	21 × 19 × 19	円
8	27 × 27 × 26	隅丸方	61	22 × 19 × 11	不整円	114	25 × 25 × 7	円	167	31 × 27 × 42	円
9	20 × 20 × 15	円	62	24 × 21 × 14	円	115	26 × 22 × 14	楕円	168	45 × 40 × 25	楕円
10	30 × 28 × 39	円	63	30 × 22 × 20	楕円	116	34 × 26 × 18	楕円	169	32 × 27 × 30	楕円
11	25 × 19 × 21	隅丸長方	64	29 × 28 × 16	隅丸方	117	42 × 23 × 19	不整円	170	38 × 38 × 44	隅丸方
12	27 × 25 × 9	円	65	29 × 26 × 31	隅丸方	118	45 × 24 × 30	不整円	171	40 × 35 × 38	方
13	24 × 22 × 41	円	66	17 × 16 × 9	円	119	36 × 35 × 51	円	172	19 × 17 × 9	円
14	20 × 19 × 13	円	67	30 × 26 × 15	隅丸方	120	44 × 36 × 37	不整円	173	32 × (16) × 7	不整円
15	36 × 36 × 27	隅丸方	68	25 × (24) × 9	不整円	121	41 × 39 × 25	隅丸方	174	34 × 32 × 49	隅丸方
16	欠番		69	27 × 24 × 19	不整円	122	25 × 22 × 28	円	175	45 × 31 × 22	楕円
17	27 × 26 × 31	隅丸方	70	20 × 19 × 17	円	123	34 × 32 × 26	円	176	52 × 39 × 40	楕円
18	32 × 26 × 33	不整円	71	25 × 22 × 31	円	124	30 × 29 × 29	円	177	27 × 27 × 21	隅丸方
19	46 × (20) × 17	不整円	72	37 × 32 × 21	円	125	26 × 23 × 25	隅丸方	178	38 × 34 × 68	隅丸方
20	24 × 19 × 23	楕円	73	26 × 24 × 22	円	126	22 × 22 × 8	円	179	37 × 32 × 53	隅丸方
21	22 × 19 × 13	隅丸方	74	32 × 20 × 34	楕円	127	26 × 25 × 18	円	180	37 × 30 × 61	楕円
22	27 × 22 × -	不整円	75	27 × 27 × 33	円	128	25 × 24 × 28	隅丸方	181	21 × (9) × 12	不整円
23	22 × 21 × -	円	76	27 × 22 × 23	隅丸長方	129	28 × 25 × 27	円	182	37 × 36 × 45	円
24	26 × 25 × 13	不整円	77	25 × 25 × 23	円	130	32 × 31 × 27	円	183	27 × (17) × 16	不整円
25	21 × (15) × 6	不整円	78	34 × 32 × 20	円	131	35 × 30 × 33	楕円	184	33 × 27 × 47	隅丸方
26	24 × (12) × 9	不整円	79	22 × 20 × 7	円	132	36 × 32 × 57	楕円	185	55 × 46 × 53	楕円
27	23 × 21 × 40	円	80	26 × 24 × 17	円	133	22 × 22 × 23	円	186	26 × 25 × 19	隅丸方
28	40 × 40 × 28	隅丸方	81	45 × 37 × 43	隅丸方	134	25 × 20 × 26	楕円	187	28 × 22 × 17	隅丸長方
29	31 × 27 × 11	隅丸方	82	30 × 28 × 26	隅丸方	135	31 × 25 × 56	隅丸方	188	38 × 30 × 16	楕円
30	29 × 24 × 27	楕円	83	35 × 32 × 33	円	136	28 × 27 × 27	不整円	189	26 × 20 × 21	楕円
31	27 × (15) × 20	不整方	84	24 × 22 × 26	隅丸方	137	26 × (17) × 19	不整円	190	24 × 24 × 16	円
32	32 × 27 × 28	楕円	85	16 × 16 × 15	円	138	欠番		191	31 × 28 × 31	楕円
33	22 × 22 × 14	円	86	36 × 35 × 19	隅丸方	139	欠番		192	24 × 21 × 9	楕円
34	25 × 25 × 18	隅丸方	87	25 × 22 × 15	円	140	欠番		193	34 × 28 × 30	楕円
35	26 × 22 × 28	楕円	88	24 × 24 × 12	円	141	欠番		194	25 × 25 × 25	円
36	欠番		89	46 × 45 × 34	円	142	32 × 29 × 30	円	195	27 × 24 × 27	円
37	32 × 32 × 31	円	90	24 × 29 × 20	円	143	欠番		196	20 × 20 × 12	円
38	20 × 19 × 7	不整円	91	28 × 28 × 9	円	144	欠番		197	30 × 29 × 26	円
39	22 × 18 × 19	楕円	92	25 × 19 × 19	楕円	145	30 × 29 × 37	円			
40	20 × 17 × 10	円	93	25 × 25 × 12	円	146	36 × 35 × 31	円			
41	37 × 36 × 41	隅丸方	94	35 × 30 × 29	隅丸方	147	欠番				
42	22 × 19 × 23	円	95	35 × 30 × 31	円	148	24 × 24 × 17	隅丸方			
43	18 × (16) × 10	不整円	96	40 × 37 × 26	隅丸方	149	32 × 30 × 34	円			
44	20 × 19 × 16	円	97	26 × 25 × 11	円	150	21 × 19 × 8	円			
45	27 × 22 × 12	隅丸長方	98	26 × 26 × 18	円	151	29 × 27 × 30	円			
46	26 × 25 × 14	円	99	26 × 25 × 32	隅丸方	152	25 × 24 × 19	隅丸方			
47	25 × 23 × 19	円	100	34 × 30 × 28	不整円	153	欠番				
48	25 × (19) × 24	不整円	101	26 × (20) × 15	不整円	154	35 × 34 × 26	円			
49	20 × 17 × 7	楕円	102	31 × 22 × 29	楕円	155	32 × 27 × 18	楕円			
50	27 × 27 × 19	隅丸方	103	16 × 16 × 6	円	156	15 × 15 × 4	円			
51	22 × 20 × 19	隅丸方	104	29 × 27 × 26	円	157	21 × (16) × 7	不整円			
52	32 × 32 × 37	隅丸方	105	28 × 26 × 10	円	158	30 × 29 × 18	円			
53	40 × 39 × 24	隅丸方	106	34 × 25 × 12	楕円	159	27 × 24 × 10	隅丸方			

ピット計測表

馬面遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

馬面遺跡は、福島県郡山市喜久田町堀之内字上馬面・下小屋地内に所在する。測定対象試料は、1号土坑から出土した木片1点である(表1)。

2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOxII)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP、表1)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用し、 $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正されている(表1)。
- (4) 暦年較正年代(または単に較正年代)とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma = 68.3\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である(表2の「暦年較正用(yrBP)」。なお、較正曲

線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20 較正曲線 (Reimer et al. 2020) を用い、OxCalv4.4 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正の結果を表 2 (1 σ ・2 σ 暦年代範囲) に示す。暦年較正年代は、¹⁴C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。今後、較正曲線やプログラムが更新された場合、「暦年較正用 (yrBP)」の年代値を用いて較正し直すことが可能である。

5 測定結果

測定結果を表 1、2 に示す。

試料の ¹⁴C 年代は 910±20yrBP、暦年較正年代 (1 σ) は 1050 ~ 1202cal AD の間に 3 つの範囲で示される。

試料の炭素含有率は 50% を超える適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 、¹⁴C 年代 (Libby Age)、pMC)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-240218	No.1	1号土坑	木片	AAA	-28.58±0.16	910±20	89.33±0.23

[IAA 登録番号 : #C614]

表 2 放射性炭素年代測定結果 (暦年較正用 ¹⁴C 年代、較正年代)

測定番号	試料名	暦年較正用 (yrBP)	較正条件	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
IAAA-240218	No.1	906 ± 20	OxCal v4.4 IntCal20	1050calAD - 1081calAD (35.2%)	1045calAD - 1086calAD (38.1%)
				1152calAD - 1177calAD (26.2%)	1092calAD - 1105calAD (3.3%)
				1193calAD - 1202calAD (6.9%)	1120calAD - 1215calAD (54.0%)

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), *Radiocarbon* 62(4), 725-757

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

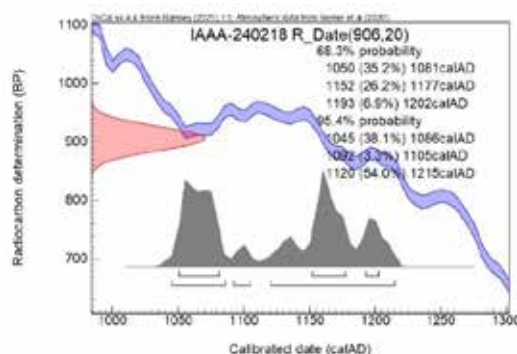


図 1 暦年較正年代グラフ

写真図版



調査区全景（上方西）



調査区遠景（南より）



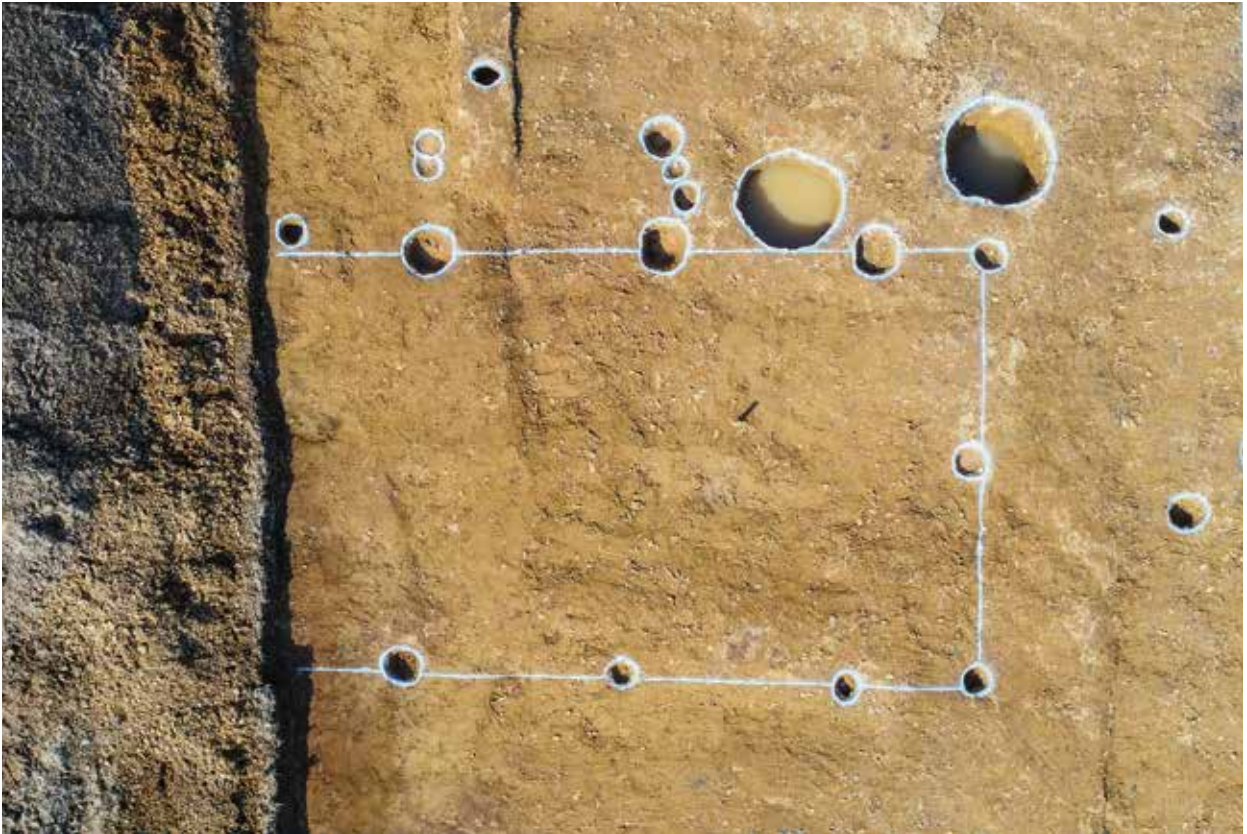
調査区遠景（西より）



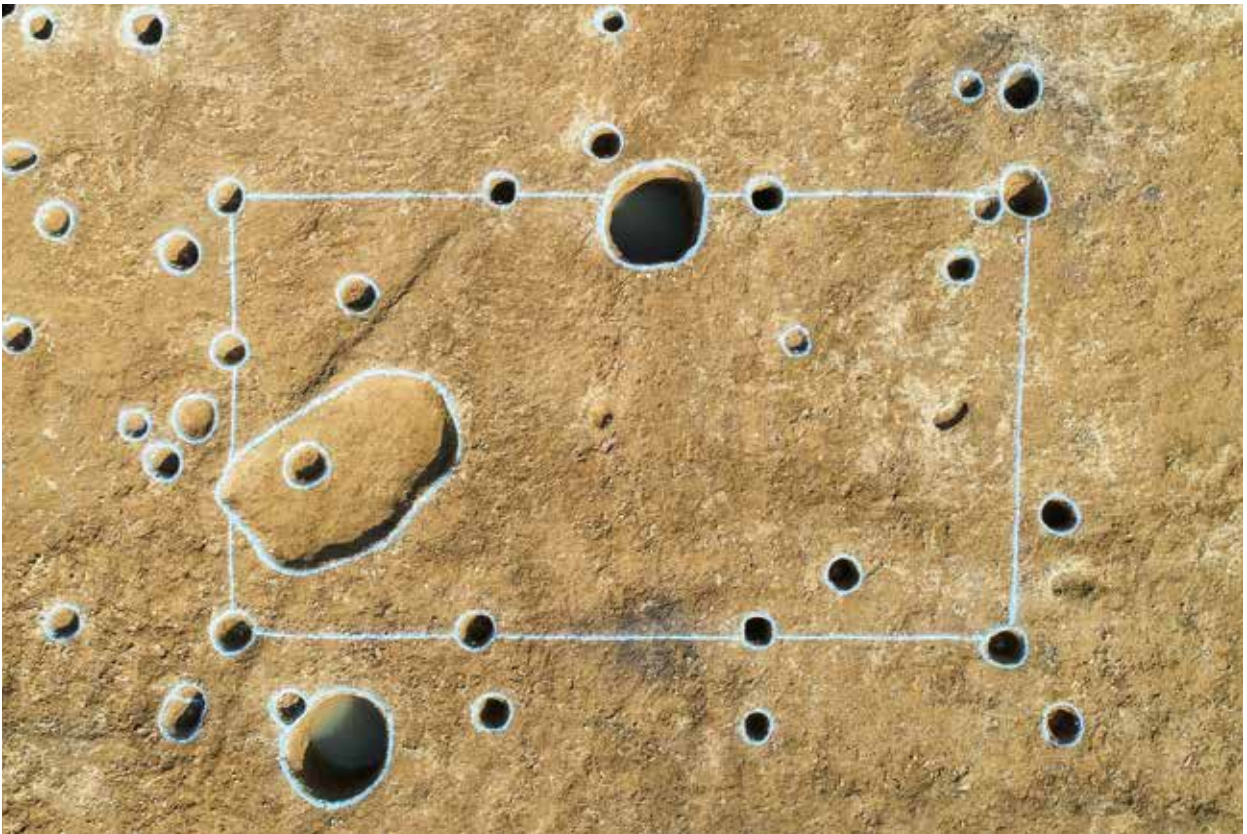
6号トレンチ全景（上方北）



1・4号建物跡（上方北）



2号建物跡（上方北）



3号建物跡（上方東）



1号土坑（南西より）



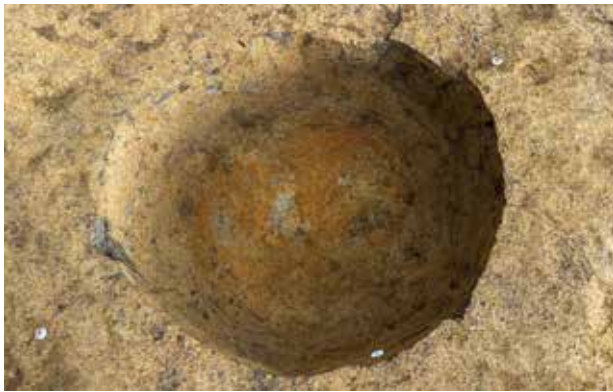
2号土坑（南より）



3号土坑（南より）



4号土坑（北西より）



5号土坑（南より）



6号土坑（南西より）



7号土坑（南より）



8号土坑（南より）



9号土坑（北西より）



10号土坑（東より）



10号土坑セクション（東より）



11号土坑（北より）



11号土坑遺物出土状況（北より）



1号焼骨遺構（東より）



3号溝跡セクション（南より）



作業風景



第 10 图1



第 10 图2



第 17 图3



第 20 图5



第 18 图4



第 20 图6

出土遺物

報告書抄録

書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査業務 馬面遺跡 喜久田堀之内地区遺跡確認調査報告書							
編著者	工藤健吾 荒木麻衣							
編集機関	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター							
所在地	福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田 23 番							
発行機関	郡山市教育委員会							
所在地	福島県郡山市朝日一丁目 23 番 7 号							
発行年月日	令和 6 (2024) 年 9 月 27 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
馬面遺跡	福島県郡山市喜久田町 字下馬面・下小屋	2036	未登録	37° 27' 4"	140° 20' 39"	20230130 ～ 20240322	1,480	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
馬面遺跡	散布地	縄文時代・古代・ 中世	土坑・溝跡・柱穴群	縄文土器・陶器・土師 器・須恵器		鎌倉時代の村 落を発見		
要約	縄文時代の落とし穴、中世の村落を確認							

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査

馬面遺跡

—喜久田堀之内地区遺跡確認調査報告書—

令和 6 年 (2024) 9 月 27 日

編集 公益財団法人郡山市文化・学び振興公社
文化財調査研究センター
〒963-0541 福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田 23 番

発行 郡山市教育委員会
〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目 23 番 7 号

印刷 株式会社坂本印刷所
〒963-0551 福島県郡山市喜久田町菖蒲池 14-26